

【報告者】 常盤 一輝	
【学年】 4 年	【教科・題材名など】 図工「ひみつのすみか」
【本時目標】 ・ つくりたいタマゴのイメージを広げ、材料やつくり方を考える。 【実践内容】 ①見本のタマゴを見て、つくりたいタマゴをイメージする。 ・ いろいろなイメージを持てるよう何種類かの見本を用意する。 ②自分のイメージに合う形の風船を選び、イメージに合った大きさにふくらませる。 ・ ここで次の 2 点を説明する。 ◎風船の形による特徴 ・ 色画用紙や新聞の貼りやすさや最後の割りやすさの違い ◎風船の大きさによる特徴 ・ 強度(風船の割れやすさ)の違い ・ 色画用紙や新聞の貼る量の違い ・ 中身の量や大きさの違い ③タマゴの内側にする色画用紙を選び、風船にはっていく。 ・ この色画用紙がタマゴの<u>内側</u>の模様になることをおさえる。 ・ 1 枚 1 枚ていねいにはり、紙と紙の間に空気が入らないようにアドバイスする。 ○はり終わったものから日の当たらない風通しの良い場所で乾燥させる。 【知的好奇心について】 この学習で知的好奇心として考えている部分は、完成までの「選択」である。この学習では、タマゴが完成するまでに、風船の形から始まり、大きさ、模様、中身、割り方など多くの選択の場面がある。子どもたちがそれぞれの場面で、自分のイメージや思いをもとに選択していく中で自分の作品の広がりや可能性を感じてほしい。また、同じゴールを目指す中で違う道を通ってきたいろいろな作品を見ることで、それぞれの良さを感じ取れるようにしていきたい。	
【反省】 導入でタマゴの見本を見せると子どもたちは目を輝かせてこれからつくる作品に思いを巡らしているようだった。また割って中を見せることで自分のイメージをどんどん広げている子も見れた。活動の中では、風船を上手くふくらませない子に「少し、伸ばしたり、手で揉んでからふくらますといいよ。」と助言している姿もあった。課題として、今回の題材は完成までに多くの時間と手間がかかるので、子どもたちが根気よく「つくりたい」という気持ちを持って活動できるよう工夫していく必要がある。 反省としては、風船の形や大きさによる特徴の違いを目で見えるよう板書するか、模造紙にまとめて掲示すべきだった。また、内側の模様をつくる際の説明も図や実際に作業しているところを見せることで混乱することなく進むことができたのではないかな。	